2015年
6月号
カトリック笹丘教会
教会ニュース
福岡市中央区笹丘1-16-1
☎761-4504 F761-4524
広報委員会

福岡教区今年度の目標…「信仰の伝達」
小教区今年度のテーマ…「学び、伝えよう、家庭から私たちの信仰を」

御心の月に思うこと

主任司祭　遠山満

教会の中の信心業が、第二バチカン公会議を境に、聖書に直接根拠を置くものでないものとして切り捨てられてきているのではないかと、イエズス会の川村信三師が指摘しております。確かに、教会の中には、ロザリオの祈りや十字架の道行など、沢山の伝統的な信心業があるにも拘らず、エキュメニズムなどへの配慮から、カトリック教会は、これらの立派な信心を前面に打ち出すことを控えているのではないかと思える時があります。それは残念なことです。何故なら、信心は、川村師の言葉を借りれば、私達の信仰生活における工夫、私達の信仰が日常生活の中に根付いていくようにする為の工夫だからです。御心の信心も、私達の信仰生活を深めていく為の一つの工夫です。

17世紀、フランスに生きた一人のシスター、聖マルグリット・マリー・アラコックにイエス様がお現われになり、ご自分の傷ついた心、心臓を手にとってお示しになりました。それ程までにイエス様は、私達を愛して下さっている、その愛を全世界に知らせるようにとシスターに求められたのです。聖女は、もともと十字架上の受難のキリストに倣いたいという強い思いを抱いていました。何故なら、キリストが人類の為、自分自身の為に苦しまれた、その苦しみを理解する為には、十字架につけられた時のイエス様と一致する以外に方法がないからです。「子をもって知る親の恩」と同じことです。

イエス様が初めに聖女に求められたことは、毎週木曜日から金曜日に日付が変わる時の夜間、1時間、罪人の為に祈ること、および初金曜日に聖体を受けることでした。また、後に、聖体の主日の直後の金曜日を「御心の祭日」として全世界で祝うようにして欲しいということを求められました。現在、初金曜日に特別なミサが捧げられているのは、この時、聖女が受けたイエス様からの要望に対する応答として行われていることです。

信心業や、教会での奉仕活動、それは、私達が救われた者として行っていくことです。私達は、救われている者ですから、イエス様の愛に応えて、信心業に取り組んだり、奉仕活動を行ったりします。もし、この意識に欠けるなら、私達は、組織の中で強制的に何かをやらされているとしか思えなくなります。それは悲しいことです。まずは、イエス様が、私達をどれだけ愛して下さっているか、私たち一人一人が日常生活の中で意識していくことができるよう、共同体として祈りを捧げて参りましょう。

拡大信会議事録　平成２７年６月７日信徒会館

初めの祈り

主任司祭の挨拶

議題

１．小教区年間テーマの具体的取組について

昨年度に引き続き年間テーマは「信仰の伝達」だが、今年は自分の信仰のルーツを確認することとし、具体的取組みとして、「信仰のルーツ」についての原稿を募集し、教会ニュースに「コーナー」を設け記事を掲載する。

２．緊急連絡網について

緊急連絡方法申告書を作成して、全所帯に配布し、必要事項を記入してもらい、６月末までに提出してもらう。配布方法はまず維持費袋の所に投函し、受取がなされていないところには返信用封筒を同封し、郵送する。ただし、切手は未貼付。

回収は専用ボックスを設置する。

なお、緊急連絡網は訃報に限定し使用する。個人情報の取り扱いについては慎重にしてほしいとの意見が出された。

３．教会運営メンバー募集について

信者会総会時に提案がなされていた教会運営の可視化及び、教会共同体の一人ひとりが小教区を支えていくために別紙組織図（別紙）を作成したがについての具体的取組みについて役員から説明がなされた。

・小教区のみなさんにいずれかのグループに参加してもらうために、「一人一役」の申告書を提出してもらう。
・「チーム長会」を新たに設置し、年数回の会議を開催する。
　なお、従来の拡大信者会は廃止する。

以上説明がなされたが、次の様な意見が出された。

・チームによって人数等のアンバランスがでる可能性があるのではないか。
・拡大信者会は何らかの形で存続してほしい。
・「チーム長会」に副チーム長は必要ないか。
・「チーム長会」に班長は参加できないのか。

４．拡大信者会のあり方ついて

上記「教会運営メンバー募集について」の議論の中で、下記のように存続を希望する意見が出された。

・どのグループにも属することができない信徒などの教会運営に対する意見の反映させる機会として拡大信者会は必要ではないか。（その場合拡大信者会は班長、副班長に一般信徒も参加できるものとする）

・毎月ではなくても開催してほしい。なくなると教会の動きがわかる「場」がなくなってしまう。

・拡大信者会はミサ後すぐ開催することが望ましい。

議論の過程で「班のあり方」についても意見が出された。

・班長は訃報の連絡係として設置されているが、班長が転出し後任が決まらず班長がいない班がある。

・班は現在、掃除当番として機能しているが、もう少し班の活性化が必要ではないか。

・班員の親睦、絆を深めるために掃除が終わった後に「お茶」でもしたらどうか。

＊教会運営メンバー募集について及び拡大信者会のあり方ついては引き続き役員会で検討することとなった。

５．今後の予定

６月１４日（日）	博多にきんしゃ～い拡大実行委員会及びボランティアについての説明会
６月２０日（土）	役員会
７月　３日（金）	アンナ・ヨアキム会
７月　５日（日）	拡大信者会

終わりの祈り

ラファエル神学生、ようこそ！

（今年度司牧実習をされるラファエル神学生に自己紹介文をお願いしました。）

笹丘教会の皆様、はじめまして！
メキシコのグアダルペ宣教会のラファエルです。来日してから五年、現在は神学科三年生です。

まず、私自身の興味のあることや好きなこと、好きな聖書の章などを紹介させて頂きます。私は日本の隠れキリシタンの歴史と諸宗教対話にとても興味があります。また、時間がある時、オペラを聞きながら本を読むことが大好きです。赤ワインも大好きで、お酒なら何でも飲めますが、一人では絶対飲まないというルールを守っています。好きな聖書の箇所はコリント教会への手紙―

「あなた方は知らないのですか。競技場で走るものは走るけれども、賞を受けるのは一人だけです。あなた方も賞を得るように走りなさい。競技をする人は皆、すべてに節制します。彼らは朽ちる冠を得るためにそうするのですが、私たちは、朽ちない冠を得るために節制するのです（9:24）」。

そして私の好きな聖人はリジュの聖テレジアです。

私が司職の道を歩み始めたのは、十四年前です。十五歳のときグアダルペ宣教会の小神学校に入りました。その時は宣教師としてアフリカに行きたかったですが、時間をかけて哲学、神学を勉強するうちに、宣教の意味がある程度分かるようになりました。「いい宣教師だったら、どこへ行っても、どんな国でも、ちゃんと宣教の活動をするだろう」ということを修練期が終わった時に強く心に感じました。「主よ、ここにいますのでお望みでしたら、僕をお遣いください」と毎日祈りました。

そうして日本に来てから、まず日本語の勉強を始めました。私にとって日本語は新しい言葉だったし、他の国の人たちと共に勉強していたのでとても面白くて、水を吸うスポンジのように日本語を覚えましたが、だんだん難しくなってくると、ストレスがたまってすごく大変な時期もありました。「宣教というのはそんなに簡単なことではない」と思いながら、頑張りました。この時役立った祈りは、アビラの聖テレジアの祈りでした。

「何ごとも心を乱すことなく、何ごとも恐れることはない
すべては過ぎ去っていく、神のみ変わることがない
忍耐はすべてをかちとる、神をもつ者には
何も欠けることがない、神のみで満たされる」

やはり宣教というのはそんなに簡単なことではありませんが、何故今ここにいるのか、と考えると、それは自分の力や努力だけではなく、神様の恵みと皆様の支えのおかげです。今年度、司牧実習のために笹丘教会に派遣されることになりましたが、まだ分からないことがあります。でも皆の支えによってうまく歩むことが出来るでしょう。毎週の答唱詩編、教会学校、侍者の奉仕など出来る限り頑張りたいと思っておりますので、皆様、いい司牧実習になりますように私の為にお祈りください。

４月２６日　四人の子どもたちの初聖体式があった。かわいい子どもたちのすがたに小教区は大きな喜びに包まれた。　**みんなおめでとう**

大きかった。なにもあじがしなかった。
幼きイエスのテレジア　いわなが　のどか

口のなかにはいらなかった。
とけたらおもちみたいになった。
こむぎこのあじがした。
もらってうれしかったです。
マリア・ヨゼフィーナ　すが　とも

もらえて　うれしかったです。
ごせいたいが、おいしかったです。
マリア　おけた　ゆあ

今からパーティー
手造りのケーキ
おいしそう

ごせいたいは　よそうどおり、こむぎこで、
もらえて　すごくうれしかったです。
マリア　カタリナ　まつもと　みつき

みんなで記念撮影

信仰のルーツ

「神様が呼んだから、ここにきているのです」

洗礼のお勉強をしてくださっていたシスター モロは、とても嬉しそうに仰った。

実はこれを理解するまで長い時間がかかった。それまで、「キリスト教」と接点がなかった「のに」ここにきているのは、自分の意思以外に何があるかわからなかった。

ある日、聖霊の話になり「聖霊は理解が難しい、でも、聖霊は愛です」と繰り返し仰ったシスター。ここから少しずつ、絡まった糸が解けるように色んな疑問が解けていった。お勉強会の時はいつもお手製のバナナケーキを用意してくださり、洗礼、結婚、娘の誕生を本当に心から喜んでくださった。私はこんなにも人の幸せを一緒に喜んだ事があっただろうか、と思い、これが愛＝聖霊であるなら、やはり私は呼ばれてここにきたのだと痛感した。
いつも迷う時はこの出来事が思い出される。

教会の建て替えのためお世話になっていた神学校で迎えた復活祭で、シスター・モロの訃報を聞いた。数年経った今でも、あの笑顔に会えない事はとても辛い。

シスター。そこから私たちが見えますか？

いつもお祈りありがとうございます。

このルーツを忘れないように見守っていてください。

（Y．H）

小教区の年間テーマ「信仰の伝達」の具体的取組みとして「私の信仰のルーツ」というコーナーを設けました。皆さんの投稿を募集中です。

教会の八重桜・・・散る

６月５日　新聖堂の建設を見守ってきた事務室前の八重桜が根腐れで倒れてしまった。教会の二十五周年の時に植樹され、毎年バザ―の前にはたくさんのピンクの花を咲かせみんなを喜ばせていたが、聖堂建設時や、その後の環境の変化のストレスのためか最近枝には妙なキノコも生え、近年元気がなくなっていた。特に今年は花も少なく、その色もピンクの色が薄く白っぽくなっていた。６月７日「今までありがとう、お疲れ様」と祈のうちに解体された。

今年の八重桜
花も少なく痛々しい

とうとう倒れた桜の木

豪華な花を咲かせていた頃

編集後記

５月の終わりに宗像の黙想の家に行く機会を得た。

黙想の家は、英語で retreat house と言うそうだ。Retreat とは元々軍隊などが退却するという意味だが、忙しい現実から一時“撤退”して、静かに祈りの時を持ち自分を見つめることができた(ような気がする)。「沈黙の行」も課せられお昼をいただく時もおしゃべりはナシ。(これが一番辛かったかも？！)　池のまわりの緑の森の小径が十字架の道行きになっていて、そこを歩くと普段は気にも留めない鳥や蛙の鳴き声がよく聞こえる。

清々しい空気に体も心も洗われるようだった。次回はぜひ泊まりがけで来て、ここで夜空を眺めたい。　(F.K)